

令和6年度 授業改善推進プラン 理科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

○学年によって、目標値を下回る領域に違いがある。

- ・4年生は、「植物の育ち方」「こん虫の育ち方・からだのつくり」などの単元で下回っている。
- ・5年生は、「月と星」以外の単元で下回っている。
- ・6年生は、「電流のはたらき」「ふりこのきまり」「物のとけ方」など物質・エネルギー領域で下回っている。

2 課題点

- ・授業で行った実験や観察が知識として定着させることに課題がある。
- ・「物質・エネルギー」の領域に課題がある。
- ・言語活動の充実に課題がある。

3 授業改善策

①理科用語の定着を図る。

理科の道具や薬品などの名前を覚える必要がある。

- ・理科授業やその他の時間でも、フラッシュカードや ICT を使ったクイズなどを活用し、実験器具を楽しく覚える時間を設定する。
- ・問題解決学習の計画の段階で、実験器具の名前をノートに書く時間を設定する。
- ・一人一実験などの工夫をする。
- ・授業開始すぐ・授業終了前の5分くらいの時間で、基礎用語の復習の時間を設定する。

算数や国語は各単元を繰り返し学習する機会がある。しかし、生物単元以外は1年に1回しか学習しない。そのため、定着率が低いと考えられる。理科授業やその他の場面でも、意図的に振り返りをする機会を設ける。

②問題が充実するような授業を計画する。

予想する段階で、児童が興味・関心をもって考えられるような発問を設定する。児童が自ら考え・調べられる問題提起をできるようにする。

③学年の系統性を考えて授業を行う。

他学年との繋がりを考えて授業を行っていく。ゴールをイメージすると、そこまでに身に付けさせないといけない資質・能力がはっきりとしてくるので、単元を点で捉えるのではなく、線でイメージして授業を計画していく。

④日常生活と理科との関連付けを行う。

実験や観察後に日常生活とのつながりについても学ばせる。生活の中で、理科で学習したことが活用されている場面が多数存在する。その存在を知ることによって意欲・関心を高められると考えられる。